

県政記者クラブ各位

第35回齋藤茂吉短歌文学賞の決定について

第35回齋藤茂吉短歌文学賞について、下記のとおり決定しましたのでお知らせします。
記

1 受賞者及び作品等

(1) 受賞者 玉井^{たまい}清弘^{きよひろ}(2) 作品名 「山水」^{さんすい} (歌集) 短歌研究社 (出版) 令和5年10月発行

(3) 受賞者略歴

歌人。1940年(昭和15年)愛媛県生まれ 香川県在住 83歳。

短歌誌「音」編集運営委員、元香川県立高等学校教諭。

四国新聞歌壇選者、愛媛新聞歌壇選者、朝日新聞四国版歌壇選者。

【主な著作等】

歌集：昭和51年『久露』、昭和61年『風箏』、平成5年『麴塵』、
平成7年『現代短歌文庫 玉井清弘歌集』、平成10年『清漣』、
平成13年『六白』、平成16年『谷風』、平成19年『天籟』、
平成25年『屋嶋』、平成30年『谿泉』、令和5年『山水』著書：平成5年『鑑賞・現代短歌 上田三四二』、
平成19年『時計回りの遊行 歌人のゆく四国遍路』

受賞歴：昭和62年第37回芸術選奨文部大臣新人賞、

平成11年第26回日本歌人クラブ賞、

平成14年第2回山本健吉文学賞・第2回短歌四季大賞、

平成18年香川県文化功労者、

平成26年第29回詩歌文学館賞・第48回迢空賞・文化庁地域文化功労者表彰

平成28年第56回四国新聞文化賞

(4) 選考理由

全国の歌人等へのアンケートでは今回歌集歌書二十四作品が推薦され、それを踏まえた選考委員による最終選考には五冊の歌集が残った。五作品はそれぞれ異なる特徴を持った成果だったが、選考会では改めて五歌集を比較検討の結果、全員一致で玉井清弘歌集『山水』を受賞歌集とすることに決定した。

玉井清弘氏は若い頃から多くの成果を挙げてきた短歌の長距離ランナーだが、蓄積を重ねて今回の『山水』は第十歌集。七十代末から八十代はじめの、親友知己の思いがけない訃報に接することもあり、身にしみる人生の時期でもあった、とあとがきに記している。

玉井氏は讃岐の人、何度か重ねる四国遍路の中で自然や風土と対話し、自分を見つめ直して人生の機微を歌に紡いできた。その集大成というべき淡々として滋味を深めた世界が高く評価された。

齋藤茂吉短歌文学賞にまた豊かな成果が加わったことを心から喜びたい。

(選考委員長 三枝昂之)

2 贈呈式

令和6年5月19日(日)に、上山市体育文化センターで開催される「第50回齋藤茂吉記念全国大会」の席上で行う予定。



(問い合わせ先) 齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会事務局
(山形県観光文化スポーツ部文化スポーツ振興課)
担当 永井 電話 023-630-2283
報道監 観光文化スポーツ部次長 丸子

齋藤茂吉短歌文学賞について

1 目的

山形県の生んだ歌人齋藤茂吉が短歌文学の発展振興に寄与した功績を記念し、短歌の分野において優れた業績をあげた者を顕彰する全国レベルの賞として、平成元年度に創設。歌壇の振興に寄与し、併せて本県の文化発信地としてのイメージアップを図る。

2 主催

齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会（委員長：山形県知事）

3 選考（第35回）

（1）齋藤茂吉短歌文学賞選考委員

委員長	三枝 昂之	「りとむ」発行人
委員	小池 光	「短歌人」編集委員
委員	小島 ゆかり	「コスモス」選者
委員	永田 和宏	「塔」選者

（2）対象作品

令和5年1月1日から令和5年12月31日までに発行された歌集・歌論・歌人研究等。

（3）選考経過

①歌人等からの推薦（令和6年1月）

全国の有名歌人等206名に推薦を依頼し、24作品を選出。

②予備選考（令和6年1月）

推薦された24作品について選考委員に予備選考を依頼し、5作品を選出。

③本選考（令和6年2月20日）

東京都内で選考委員会を開催し、選出された5作品から受賞者・作品を決定。

4 賞の贈呈（令和6年5月19日）

賞状及び賞金100万円を贈呈。

齋藤茂吉短歌文学賞既受賞者及び作品一覧

区 分	受賞者名	受賞作品名	分 野
第1回（平成元年）	岡井 隆	親和力	歌集
第2回（平成2年）	本林 勝夫	齋藤茂吉の研究 -その生と表現-	歌人研究
第3回（平成3年）	塚本 邦雄	黄金律	歌集
第4回（平成4年）	前 登志夫	鳥獸蟲魚	歌集
第5回（平成5年）	齋藤 史	秋天瑠璃	歌集
第6回（平成6年）	近藤 芳美	希求	歌集
第7回（平成7年）	小暮 政次	暫紅新集	歌集
第8回（平成8年）	馬場 あき子	飛種	歌集
第9回（平成9年）	吉田 漱	『白き山』全注釈	歌集研究
第10回（平成10年）	佐佐木 幸綱	吞牛	歌集
第11回（平成11年）	伊藤 博	萬葉集釋注	歌集研究
第12回（平成12年）	森岡 貞香	夏至	歌集
第13回（平成13年）	竹山 広	竹山広[全歌集]	歌集
第14回（平成14年）	藤岡 武雄	書簡にみる齋藤茂吉	歌人研究
第15回（平成15年）	清水 房雄	獨孤意尚吟	歌集
第16回（平成16年）	小池 光	滴滴集	歌集
第17回（平成17年）	三枝 昂之	昭和短歌の精神史	歌論
第18回（平成18年）	花山 多佳子	木香薔薇	歌集
第19回（平成19年）	永田 和宏	後の日々	歌集
第20回（平成20年）	河野 裕子	母系	歌集
第21回（平成21年）	伊藤 一彦	月の夜声	歌集
第22回（平成22年）	品田 悦一	齋藤茂吉 —あかあかと一本の道とほりたり—	歌人研究
第23回（平成23年）	篠 弘	残すべき歌論 —二十世紀の短歌論—	歌論
第24回（平成24年）	秋葉 四郎	茂吉幻の歌集『萬軍』	歌集研究
第25回（平成25年）	栗木 京子	水仙の章	歌集
第26回（平成26年）	小島 ゆかり	泥と青葉	歌集
第27回（平成27年）	柏崎 驍二	北窓集	歌集
第28回（平成28年）	橋本 喜典	行きて帰る	歌集
第29回（平成29年）	大辻 隆弘	景德鎮	歌集
第30回（平成30年）	春日 真木子	何の扉か	歌集
第31回（令和元年）	吉川 宏志	石蓮花	歌集
第32回（令和2年）	大島 史洋	どんぐり	歌集
第33回（令和3年）	岡野 弘彦	岡野弘彦全歌集	歌集
第34回（令和4年）	佐藤 通雅	岸边	歌集
第35回（令和5年）	玉井 清弘	山水	歌集

【 玉井 清弘 氏 】

